

館山地区説明会 協議録

日 時	令和4年6月24日（金） 19:00～20:40
場 所	館山小学校 体育館
出席者	出山教育長・岡田教育部長・今井教育総務課長・庄司教育推進室長・ 藤本同副課長・小柴副主査（司会）
参加者	11人（保護者60% 地域住民40%）
記 者	なし（－）

【 概 要 】

- 教育長説明 5分
- 課長説明 50分
- 前日までの質疑応答の紹介 5分
- 質疑応答 30分（4名）

（学校再編全体の方向性に対する意見）

- 特になし

（地区での組織立て方法に関する意見）

- 特になし

【 個別議事録 】

（参加者A）

- ・ 説明時間が長すぎる。もっと、この館山地区の現状と将来の課題点のように、絞った説明を求める。
- ・ 35人学級の基準を引き下げ、もっと細やかな指導、教育を行うべきではないか。
- ・ 維持管理経費を減らす工夫や方策は？

（藤本副課長）

- ・ 学校運営をとりまく現状、どのような未来が待ち受けているのか、課題点は何かを理解してもらい、市民の方々に丁寧な説明を行うよう学校再編調査検討委員会からも答申を受けています。また、昨日の説明会終了後には、保護者の方から「丁寧な説明で、現状と未来の課題点が良く分かった」との言葉を頂いていたところです。

よって、このような説明を行っていることをご理解いただきたい。

- ・ 市が、独自の基準を設けクラス数を増やした場合、市が教職員の採用試験を行い、市民の皆さまの負担により、教員を採用しなければなりません。現在、日本全国で教員不足が起きており、これは、過酷な労働環境から若い世代において教員を目指す人達が減少しており、千葉県教員採用試験の倍率も急激に低下しています。

特に小学校では、昨年の採用倍率が2倍を下回る1.9倍となっており、現実的には、非常に難しいと判断しています。

なお、現在、市内小中学校で産休等により欠員が生じた場合、教員免許を持っている非常勤講師を探すのにも苦労しており、教育長や教育委員会に配置されている教員の

方々のつてを頼ってなんとか見つけている状態です。

- ・ 現在、市内小学校のうち3校（船形小・那古小・館野小）で、水泳の授業を学校プールではなく、市の温水プールや民間事業者のセントラルスポーツの施設を利用して、授業を行っています。理由として、プール施設の老朽化により、多額の改修費用が発生した場合（例えばプールの水漏れ、濾過装置の更新）、一度に数百万単位での改修費用が発生するため、そのような改修が必要となったタイミングで、自前の施設を改修するのではなく、市内の施設を有効に活用する取組を行っています。

また、これにより、日々のプールの水質管理など少しでも教員の方々の負担を軽減できること、もう一つは、温水プールやセントラルなど屋内施設であれば、子供にとっても天候に左右されず、カリキュラムどおりの授業を行え、専門性のある水泳指導を子供たちに受けさせることができることなど、お金の面とは少し離れますが、それらのメリットもあるところです。

（教育長）

- ・ 今回の説明を聞いていただき、これから各地区での組織を作って、地区の意見を纏めてもらうことを想定しており、説明の中においても、館山地区の現状や今後についての説明を一部追加して説明させて頂いていますので、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

（参加者B）

- ・ 子供が減っていくのは仕方が無いが、少子化対策の策はないのか？

（岡田部長）

- ・ 市の基本計画でも、子育て環境の充実や移住定住施策について位置づけを行い、各種施策を実行している。最近では不妊治療への対策なども取り組んでいるところです。

（具体的な施策／次の会場からの追加回答）

- こどもに係る医療費については、中学3年生まで通院・入院ともに1診療：300円、調剤は全て無料としています。
- 3歳児以上の保育園・幼稚園・こども園・認可外保育・預かり保育などの保育料をタダ（無償化）としています。
- 学童クラブを公設化（市が運営主体となる）し、放課後の子供の預かり場所を確保しています。
- 移住施策としては、子育て世帯が館山に移住した場合、家賃補助として月2万円×12カ月＝24万円の支給
- 東京圏からの移住者に対しては、2人以上世帯100万円に18歳未満の子供1人につき+30万円などの支援
- 市内への企業誘致施策としても、新たに市内に事業所を新設・増設した企業に対して、固定資産税・都市計画税相当の補助（実質的な税減免）を行っている。

実は、これらの施策の効果とは言い切れませんが、千葉県内での合計特殊出生率に関しては、館山市が、過去10年以内でも、1位を記録したのが3回あり、最新の令和2年度も県内36市のうち6位という数値となっています。

※ R②：県平均 1.27 全国平均 1.33 館山市 1.45

このように、館山市とましても、少しでも子供を増やすこと、首都圏から人を呼び込む施策を実施しています。

但し、一つだけ皆さまにもご認識して頂きたいのは、今、日本全国で子育て世帯の奪い合いの状況が起きています。例えば、移住して家建てたら百万円、給食費は全額無償な

ど、全国自治体で人を呼び込む施策が、エスカレートしている状況もあります。

それらの財源は、結局は、全市民の負担により、行っているわけであり、市としましては、今、この地域に住んでいる方々への行政サービスとの兼ね合い（見極め）が肝要だと認識しているところです。

（参加者 B）

- ・ 学校の魅力を高める施策は？

（教育長）

- ・ 郷土、館山の故郷を学ぶため、全小中学校では、館山の礎を築いた里見氏の歴史について、小学校 6 年生が 4 時間、中学校 2 年生が 4 時間実施しています。

それ以外には、各地域の特性を活かし、館野小学校では苺の栽培、西岬小学校では海洋教育、商業地域では館山市の商業や町の形成など、それぞれ地域の地理や風土などの視点による教育を実施しています。

（参加者 A）

- ・ 現在の館山中学校（旧二中校舎）の移転後、その跡地利用の考え方は？
- ・ 今後、新設する館山中学校（旧第三中学校跡地）は、今後の生徒推移を見据えた規模で建設を行うのか？

（今井課長）

- ・ 現在の館山中学校の跡地利用に関して、決定したことはありません。今後、検討を行っていくべき事項ではありますが、武道場や講堂などを引き続き、公共施設として活用をするのか、それとも民間事業者での活用を中心とするのか、いずれにせよ、市にとって有効な利活用方策について、今後検討していきます。
- ・ 新設する館山中学校の校舎の設計業務は完了しており、現時点での館山中学校区の生徒数の推移を見ながら、設計を行ったところです。

（参加者 C）

- ・ 前回（平成 22 年）の時も、各地区で説明会があったが、その当時に比べ、子供の人数がかなり少なくなってきた。ただ働くお母さんは増えていると思うが、北条幼稚園・館山幼稚園を認定こども園にする考えは無いのか？
- ・ 保育士の確保が難しいと思うが、預かり保育については資格が無くても大丈夫では？
- ・ 幼稚園の今後のあり方（方針）について。

（岡田部長）

- ・ 現在でも北条幼稚園は、預かり保育を実施しているため、長時間の預かりも可能です。館山幼稚園では、そのような方向性はありませんが、その理由としては、現在市内保育園での待機児童が無い状態であり、働くお母さんにとっては、保育園・こども園での入園が可能となっているためです。

（藤本副課長）

- ・ 市内全部の幼稚園では、定員の半数以下の入所者となっており、こども園でも 60%、保育園でも 80%との現状となっていること、また、小学校に隣接する幼稚園・こども園についても、小学校と合わせて今後のあり方を検討していきます。
- ※ 預かり保育に関しては、無資格でも補助員等であれば現在でも採用しているが、資格の有無にかかわらず、教員と同様に保育士も働き手が不足している状況

（参加者 D）

- ・ 館山小学校へ路線バスで登下校をしている1年生児童の保護者ですが、バスが満員で最後に乗車する子供は座れないので、スクールバスを運行して頂けないか？

(藤本副課長)

- ・ まずは、現状を把握させて頂きたい。
モラル的な部分での解消の方法もあると感じますので、それらを踏まえ教育委員会内で検討を行っていきます。